

除草剤と
肥料の多
芝生回復試験事例を紹介

第33回芝草勉強会を開催

日栄商事

的な壁紙には無い、個性「デザイナー」がデザインし

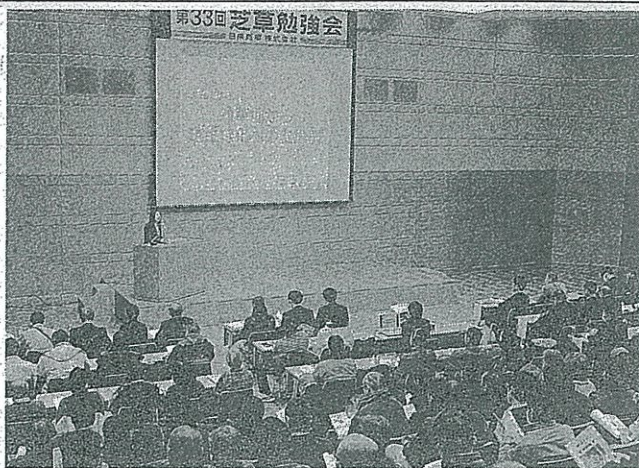
日栄商事（本社・金沢市、中村哲郎取締役社長）は18日、芝草勉強会を金沢市鞍月の石川県地場産業振興センター新館コンベンションセンターで開催した。

今回で33回となる勉強会には、富山、石川、福

井の北陸3県などからゴルフ場や公園、道路・河川といった緑地等の芝草の維持管理に携わる事業者約270名が参加。冒頭、中村社長が「本日の勉強会が盛り多きものとなり、今年も皆様がますます活躍されることを願う」とあいさつ。続いて講演に移り、同社農事部技術普及課の石綿愛里沙氏が「雑草地から芝生緑化への変換例について」と題して講演し、除草剤と肥料のみを使用した除草による芝生回復の試験事例について紹介。試験は2回に分けて行われ、最初は雑草地で全体的に多いメリケンカルカヤ、次回は代わりに目立ってきたチガヤ対策を重点に実施。その結果、メリケンカルカヤ、チガヤなどの問題雑草の除草に成功。肥料の散布により雑草下に残っていた芝生も徐々に回復したが、雑草が覆っていた期間が長いと芝生の回復に時間がかかるため、裸地になった場所が目立つ結果となった。このため石綿氏は「雑草が生え始めてから

の早めの対策が重要」と指摘した。

続いて東洋グリーン営業本部マーケティング部長の杉本信行氏が「難防除広葉雑草の対策について」、BASFジャパンアグロソリューション事業部環境緑化製品部の澤路聖之氏が「根量が増加する芝生用殺菌剤について」、さらに理研グリーン開発部グリーン研究所研究員の田中辰典氏が「特定外来生物クビアカソヤカマキリの生態について」と題してそれぞれ講演。最後に基調講演として、ヒューエンタープライズ代表取締役の田中裕敏氏が「芝生の管理に必要な土壌学、肥料学の基礎」と題して無駄のない正しい管理をするための土壌や肥料などの基礎知識について解説した。



北陸3県から270人が参加した芝草勉強会＝18日、金沢